



100歳 対談

測量の魅力はPR

対談者 広報推進協議会(測量・地図作成分野) 飛田 幹男
測量Boyz 古村 禎仁, 植田 雄大

近年の技術革新に伴って測量に関する業務は大きく範囲を広げ、日常生活のありとあらゆるところに測量や地理空間情報が関わっていますが、その内容や魅力はあまり知られていません。今回は世代および立場が異なる方々をお招きし、どのように測量の魅力はPRし、測量業界を発展させるかについて意見交換することを目的として、広報推進協議会(測量・地図作成分野)座長・飛田幹男氏(国土交通省国土地理院参事官)と測量Boyzのメンバーである古村禎仁氏(日測技研株式会社)、植田雄大氏(株式会社エーティック)に対談していただきました。

に至っております。会社では川や海、用地などの測量業務を担当しています。

植田 株式会社エーティックの植田です。生まれも育ちも札幌です。野生動物が大好きで、酪農学園大学で野生動物の勉強をしてきました。会社では野生動植物の調査を担当しています。

飛田 お二方に加えて飯田さん(株式会社シビテック)、永谷さん(株式会社シー・イー・サービス)の4人のメンバーで測量Boyzとなるわけですね。皆

自己紹介

古村 日測技研株式会社の古村です。北海道南西沖地震があった奥尻島(奥尻町)の出身です。数学が得意だったこともあって、それから測量に興味を覚え、札幌理工学院(江別市)を卒業して現在



測量Boyz「恋のトータルステーション」
(引用: <https://www.youtube.com/watch?v=6n8sPOy882c>)



本企画では世代や立場などが異なる2つの考えを刺激しあうことを読者にわかりやすく表現したいため、参加者が3名以上でも対談という用語を用いています。



測量Boyz
 (引用：一般社団法人 北海道測量設計業協会
 HP <http://www.hokusokukyo.or.jp>)

さんのプロモーションビデオ(以下、PVという)やジャケット写真を見ると、それぞれ楽器を持っているようですが、皆さん楽器は演奏されるのですか。

植田 あの絵は、ジャケットを作成するためにギターを持ったような形になっていますが実際には弾けません。

古村 自分も楽器は一切できません。音楽も、学校で習う程度しかできなかったので、測量Boyzのお話を最初にいただいたときにはびっくりしました。

飛田 いや、そうは見えませんでした。本当にサマになっていて素晴らしいですね。では私も自己紹介させていただきます。1987年に国土地理院に採用されました。最初の仕事は基準点測量で、多くの機材を持って山に登り四等三角点を設置するような仕事をしていました。山頂の木の上に測旗を設置した後別の山から、自分が設置した旗が山の稜線にヒラヒラとはためいているのを見て地球規模の仕事をしているのだなと感動

したことを今でも覚えています。

その後、VLBIや、それからGPSも今のように測量に使える前の段階から関わってきました。そして、合成開口レーダーのような宇宙測地技術の開発と、それらを使った基本測量、それらの成果も利用しながら、世界測地系に移行するためのソフトウェアの開発に携わったりしました。また、今日は広報推進協議会の座長という立場でも参加させていただいております。

測量Boyz誕生と広報推進協議会 (それぞれの広報活動)

古村 測量Boyzは測量業界に少しでも興味を持ってほしいという企画から始まっています。堅苦しい内容よりも、少しでも感じた感じのイメージのもとに結成されました。

植田 北海道測量設計業協会の会員企業の内、35歳以下の者が集まる中で、「このようなものを作りたいがどうか」という話があって、そのときは皆、「いや、ちょっと私は……」という感じだったのですが、その後、メールで「測量Boyzのメンバー決定」と通知がありメンバーになったことを知りました(笑)。

飛田 即席のバンドというようには見えませんね。日々練習している人たちがPVを出したのかなと思って、今お話を聞いて「へえ」と思いました。「ハカレ、ハカレ、ハカハカレ」というように繰り返していますね。これが何回も何回も出てくることで、印象的でしばらくは耳に残ったままになりますね(笑)。PVの中では仕事の写真がちらりと入ったり、測量の小ネタがそこらじゅうにちりばめられていて面白い。歌詞等は皆さんで考えたのですか。

植田 実はメンバーで作ったものではなく、歌詞や楽曲についても、すべてプロの方にやってもらっ

て進めてきました。

飛田 歌詞の中に「インテリジェント基準点」の後に「気づいて」というのがありますね。多分、インテリジェント基準点という魅力的なものがあるのに、気づいてくれないと。つまり、恋になぞらえると、「私の魅力をちゃんと気づいてもらえない」ということでしょうけれど、それと同様に、測量には魅力があるけれども、それに気づかれないから、気づいてほしいという深いストーリーがあるように感じました。

植田 そうですね、相手と自分の気持ちを測るという意味で、近づかないと測れないという意味は、そこをなぞらえているというのは、おっしゃるとおりだと思います。

飛田 PVからは測量の楽しさに加え、役割や魅力、さらにわくわく感のようなものも伝わってきて素晴らしいと思います。



広報推進協議会リーフレット(令和2年度版)
(引用：広報推進協議会 HP
<http://sokuryo-koho.com/activity-report/images/2020リーフレット.pdf>)

我々の広報推進協議会の設立趣旨についてもお話しさせていただきますと、測量とは社会を支える重要な仕事なのですが、その仕事の性質上、表舞台に出ることは少ないという状況なので、測量という仕事の価値や重要性、また、測量に従事する技術者の役割などについて、国民の皆様の十分な理解があるとは言い難い状況になっています。そこで、測量に関する国民の理解や関心を高め、測量業全体が一層発展するということを目指して、平成27年12月18日に設立されました。

古村 どのような活動を行っているのでしょうか。

飛田 リーフレット作成や、各構成団体の活動として、測量体験学習、地図や測量に関する講演会、シンポジウム、フォーラム、セミナー、それから学会活動などを行っています。同時に、構成団体の広報誌、あるいは機関誌の発行もそれぞれ行っています。

活動への反応/反響

飛田 広報推進協議会による活動への反応について主なものを紹介しますと、協議会のホームページの中で、特に「先輩からの一言」のコーナー、「測量・地理空間情報 女性の技術力向上委員会」の活動は、学生や女性からもポジティブな反応が寄せられています。皆さんの活動にはどのような反響がありますか？

古村 私の姪がYouTubeで測量BoyzのPVを見ていつの間にか歌詞を覚えてしまって、サビの部分を繰り返しリピートしていたのです。それを見て、やはりYouTubeの影響力は大きいのだということを感じました。

植田 YouTubeをはじめ、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌と様々なメディアに露出させていただきましたが、周囲の皆さんから「すごいね」と言われま



リモート対談風景(場所：北海道)

すし、周りの人に知られていることにびっくりしています。役所などに行ったときにも測量Boyzの話が出てきたりするときもあるので、広報としては大成功しているのではないかと率直に思っています。

飛田 測量Boyzは広報としてとても良い活動、取り組みですので、まずはリンクを貼らせていただいで、協議会のホームページでも宣伝させていただければと思います。

(※注：対談後、広報推進協議会HPにリンクが貼られました。)

人材／環境／問題点

飛田 広報活動の強化のため協議会を発足した背景には、測量業者、測量技術者を取り巻く状況がどんどん変わっていることがあります。実際の測量作業に従事する技術者が減少しています。また、高齢化が進んでいます。さらに、女性技術者が少ない。これらの課題を解決していく必要があるのです。

植田 そうですね、私の会社でも若い人を採用してはいるのですが、40代以下は極端に少ない。デスクワークする女性はいるので、実際に現場に出る人は少ない。やはり、高齢化している、若い人がいない、女性が来ないという、その三つに尽きるのかなと思います。

古村 測量の機械も進歩して昔と比べ随分と軽くなって扱いやすくなりました。女性でも操作しやすくなっているとは思いますが、その辺もアピールしていかないと、女性は増えていかないのではないかと感じています。

それに加えて、測量の専門学校が減っているということも若手不足につながっているのではないかと感じています。

飛田 女性職員で現場に行く人はいらっしやらないというのは、やはり女性たちは外に行きたいという感触は持ってないということなのですか、それとも、そもそも採用の枠として、事務職として採っているということなのでしょうか。

古村 女性技術者に関してははもともと応募してくることが少ないのではないかと感じています。

飛田 そうですか。やはり、PR不足、PRの方法に改善の余地があるのかなと思います。魅力というのは、楽しさやわくわく感もあるのでしょうか、それに加えて、女性や若者が働きやすい職場環境、それから、魅力的な賃金も必要になってくるのかなと思います。いかがでしょうか。

古村 測量業界全体が、有給休暇取得の促進や給与の引き上げに努力を続けていって欲しいと思います。

植田 測量はフィールドワークがきついにもかかわらず職場環境の整備がされていないとなると、若



リモート対談風景(場所：茨城県)

手、女性の就職先の候補からどうしても遠のいてしまうでしょうからね。

古村 私の会社で年齢比率の高い50~60代の方が、これから定年となりどんどん人数が減っていく、その時に下の者がいないとなると、会社自体が立ち行かなくなるという状況にもなっていくと思いますし、上の方は若手を育て成長させるという役割を、しっかり果たせるような会社になって欲しいと思っています。

植田 このままでは我々が上に立ったとき指導する力が身についてこないのではと感じています。

飛田 非常に貴重なご意見をいただきました。ありがとうございます。本当に何とかしていかななくてはいけないという、本質を突いたご意見だと思います。

PRは“つかみ”と継続的な魅力発信を

飛田 公共工事のコストパフォーマンスを良くするためには、測量・設計にも適正な利潤が確保されるということが必要な条件になってきます。これによって優秀な人材を確保して育成するというような好循環につながっていくのではないだろうかと思います。

その具体的な対策としては、まず発注者側としては十分な予算を確保する必要があります。一方、受注者となるような測量業者は、価格よりも、むしろ技術者と技術力で競争するというように考え方を変えていく必要があると思います。品確法に位置づけられたり、あるいは、予算を

確保したり、それから単価を上げたりすることのために、国会議員、財務省、国土交通省などといった周りの理解が必要なのです。そのために、測量の魅力、測量は高い技術力が必要なのだということをお分かりもらうための広報活動は、さらに重要なのかなと思います。

広報活動には2段階があると思っています。第1段階は、つかみといいますか、こちらを振り向いてもらう、あるいは知ってもらう、興味を持ってもらうこと。第2段階が、必要な情報を的確に提供して、その中で正しい情報を伝え、しっかりと理解していただく、さらに良いイメージを持っていただいて味方になってもらうことだと思っています。

古村 測量の仕事については、世間に余り知られていませんので、入職の動機づけは、他の職種に比べて、より重要になってくると思います。スマホ、SNS、YouTubeなどをフルに活用して、まずは見ていただくということが大事なのではないかと思っています。

植田 僕らの測量Boyzというものはとてもいいものとして扱えるのではないのかなと思っています、そこから興味を持った人は、おのずと中身について調べていくと思うのです。その上で、職業として選択するかどうかということは、賃金を含めた職場環境も踏まえて「やりたいけど、暮らしていくにはちょっと厳しいな」などと思ったときに、それでもその仕事に魅力を感じ続けてもらえるかどうかがとても大事なのではないかと思っています。

今後の広報活動

古村 測量Boyzが次に何をやるということは、今は決まってはいません。また歌を歌ってくれと言われたら少し難色は示すかもしれないですが(笑)。



飛田 幹男 氏



古村 禎仁 氏



植田 雄大 氏

測量業界のPRにつながるのであれば協力はしたいと考えています。

植田 このような対談や取材を受けて、この測量Boyzというものを使って測量について少しでも広めていただけるのであれば協力させていただきたいと思いますし、業界がどんどん発展してほしいと思います。

飛田 広報推進協議会の方はこれまでの活動を、地道ですけれどもしっかりと継続していくということが重要ななと思っています。

最近、デジタルトランスフォーメーション(DX)やSociety 5.0といった言葉が盛んに使われていますが、このような分野というのは、まさにわれわれ測量分野の人たちの出番なのです。デジタルデータの中の半分ぐらいは、位置に関するのです。なぜかという、空間に結びついて初めて、サイバー空間、フィジカル空間という、Society 5.0を構成する二つの要素が成り立ってくるわけなのです。

サイバー空間(仮想空間)、言い方を変えるとデジタル空間ですが、そこを形作るのがわれわれの仕事です。実際に現場で、いろいろな測量機械を用いて、フィジカル空間から得たデジタルデータを仮想空間として集めるというのがわれわれの仕事ということになるので、まさにデジタル社会、デジタル空間の主演は測量技術者ということになると思います。ですから、われわれの仕事はずっと比較的地道な仕事だったのですが、もしかしたら今後は表舞台に出るという可能性も十分に秘めているということで、未来

を支えるような仕事になっていくということなのかなと思います。

古村 PRという点では、自衛隊や看護師のような感じでテレビCMという形はできないものなのでしょうか。測量業界の名前だけ出して、「測量やりましょう」というような感じで1日1回でも2回でも流して、それによって、そこから測量という業種があるということを知ってもらえるような、そういう形でのアピールはできないものなのでしょうか。

飛田 それは非常に素晴らしい提案かと思っています。広報推進協議会として検討していきたいと思っています。そうですね、本当につかみのところでいいわけですね。測量Boyzのように、堅いものではなくて少し測量からずれてでも、何かイベント事をやってみるということが可能であれば、取っ掛かりとしてはいいと思います。今後ともよろしくお願いします。最後にお願いがあります。測量の基準には、測量法で定めた「経緯度原点」や「日本水準原点」という言葉があり、測量従事者にとってはそれで良かったのですが、一般にはそれではなかなか分かりにくいので、新しい言葉として「国家座標」というものを浸透させたいと思っています。測量法に必ずしも縛られない分野の人たちも、しっかり統一された日本標準の位置情報の共通ルールである国家座標を用いてくださいというようにPRしたいと思っています。測量Boyzさんの第2弾、第3弾のPVには入れていただくとありがたいです。



企画・進行・文責：宮崎 久(公益社団法人 日本測量協会)

新聞取材等における感染対策に配慮したルールにもとづき、今回はWeb会議で実施し、写真撮影のみ短時間の対面形式で実施しました。